



長崎大学学報

(題字は池田学長)

トピックス

医学部附属原爆後障害医療研究施設
山下俊一教授・柴田義貞教授「ロシア友好勲章」受章

第628号

幕末・明治期 日本古写真コレクション



長崎・高鉾島(7)

1

平成14年

表紙写真説明

高鉾島（ 7 ）

長崎南部の戸町から長崎港口の高鉾島を望むアングルの写真が数多く写されているのは、この島がPappenbergと呼ばれるキリシタン殉教の地として外国人にも知られていたからである。中央に霞んで見える島が高鉾島で、古くから長崎湾に入港する目印になっていた。画面の右から張り出した岬は神崎、左からの張り出しは女神である。手前の戸町には江戸時代、長崎港への入港を監視する番所が置かれていた。

目 次

年 頭 所 感	2
トピックス	
・医学部附属原爆後障害医療研究施設 山下俊一教授・柴田義貞教授 「ロシア友好勲章」受章	3
文部科学省在外研究員紀行	4
表 敬 訪 問	6
学内ニュース	
・平成13年度医学教育等関係業務功労者表彰（総務部人事課）	7
・医学部附属原爆後障害医療研究施設研究棟竣工祝賀会開催（医学部）	7
・「長崎大学の将来構想」に関する学内説明会開催（総務部総務課）	8
・「外国人留学生交流の集い」開催（学務部留学生課）	8
・大学病院の法人化に向けての講演会開催（医学部附属病院）	9
・平成13年度教育者表彰（総務部人事課）	9
・患者さんに光と音楽のプレゼント（医学部附属病院）	10
・平成13年度学内合同事業ボウリング大会開催（総務部人事課）	10
・第18回熱帯医学研究コース修了証書授与式挙行（熱帯医学研究所）	11
・第2回機器分析センター講演会開催（機器分析センター）	11
・平成13年度長崎大学診療報酬請求事務研修実施（医学部附属病院）	12
・薬学部で第1回FD実施（薬学部）	12
・「県下離島高校生招聘実習」実施（水産学部）	13
・「キャンパス・インキュベーションに関する懇談会」開催（総務部研究協力課）	14
・平成13年度第2回長崎大学職員の企業会計等事務研修実施（総務部人事課）	14
・外国出張者等一覧	15
・外国人研究者受入状況	16
・主要行事等	18
教育研究事項	
・「日本薬学会九州支部学術奨励賞」受賞	19
お 知 ら せ	
・訃報	19
人 事	
・人事異動	20
・氏名の変更	21
学 内 の 会 議	22
(別冊)	
全学規則等	1

年頭所感

～ 大学を変える ～

学 長 池 田 高 良

平成14年の年頭にあたり、皆さんに謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平成13年は、新世紀にふさわしい希望に満ちた年として迎えられましたが、後半には世界を震撼させる大事件や戦争が起こり、国内外ともに課題を山積したまま本年へ引き継がれました。

長崎大学は今、大改革を進めつつあります。大学を変えつつあるのです。改革の目標は、大学の生き残りであり、国内と国際の場で輝く存在となることです。大学間の種々のレベルでの競争は地域においても、国内、国際の場においても進行しています。そして、わが国における少子化傾向や財政状況はこれらの競争をさらに激化させています。大学は時代や社会の要請に応じて変わることが求められているのです。身近なところでは、教員による厳正な成績評価と学生による授業評価など、授業を変えることが求められています。研究については、今までの研究のあり方に対するこだわりを変えたり、国内水準を高度化し国際競争に積極的に参加するなど、研究への姿勢を変えることも大切でしょう。そして、教育研究のあり方の改革は、当然のことながら日常生活や思考・行動の様式にも変化を起こすはずで、さらに、自らの教育研究及び社会活動の成果については評価を受け、自己責任において向上を目指すことが求められます。また、学部・学科など組織についても、特色ある分野を重点化するなど、大学内において再編・統合を行い機能分化及び特化を進める



ことも重要です。すなわち、組織を変えることも検討課題です。大学は種々の視点から変わることによって、競争的環境の中でさらなる発展が期待できるのです。人も組織も、そのあり方も変わることが求められていることを改めて認識してください。

大学を変えるのは、改善ではなく改革によるのです。改革とは新しい目的・目標に向かって、既存の考え方を一度壊してみても再構築して行くことです。再構築は数合わせではなく新しい価値を創り出すためでなければなりません。

今年も山積している大学改革の課題に取り組みます。教職員の皆さんのご指導とご協力をお願い致します。

トピックス

医学部附属原爆後障害医療研究施設
山下俊一教授・柴田義貞教授
「ロシア友好勲章」受章

医学部 山下俊一教授



医学部 柴田義貞教授

このたび山下俊一教授（医学部附属原爆後障害医療研究施設 分子医療部門分子診断研究分野）・柴田義貞教授（医学部附属原爆後障害医療研究施設 放射線障害解析部門放射線疫学研究分野）が「ロシア友好勲章」を受章されました。

この勲章は旧ソ連時代の国民友好勲章であり、国家間の平和や友好活動を強める活動に対して贈られるもので、ロシアの勲章では名誉勲章の次に格が高いとされています。これまで日本人で受賞したのは旧ソ連時代も含めて十数人のみで、医学、医療関係者では本邦発の快挙となります。

今回はチェルノブイリ原発事故から15年、その間1990年からの長崎大学医学部の継続的なチェルノブイリ医療支援活動や学術共同研究、特に両教授がチェルノブイリ笹川プロジェクト推進の中心的役割



を医療・疫学統計面で発揮したことが高く評価され、その多大な貢献に対して授与されたものです。

授与は12月6日(木)、在日ロシア大使館において、パノフ大使により行われました。

（医学部）

アメリカ留学を終えて Land of Lincoln, Springfield より

派遣期間：平成13年2月1日～平成13年11月30日

主たる滞在国：アメリカ合衆国

研究題目：シスプラチンの耳毒性発現の機序とその予防法
に関する研究

医学部 文部科学教官助手 田中藤信



生年月日 昭和40年11月24日

学位 医学博士

専門分野 内耳生理学

現在の研究テーマ

- 1) 電気生理学的手法を用いた、抗菌剤およびインターフェロンの耳毒に関する研究
- 2) 蝸電図による聴神経腫瘍患者の聴覚の解析
- 3) シスプラチンの耳毒性発現機構の解明と予防法の確立

2月1日に、関西空港からシカゴ経由で、スプリングフィールドへ行く予定でチケットを購入していたのですが、関空のカウンターで、「2月1日からシカゴ、スプリングフィールド間の飛行機は運休になりました。」と言われ途方に暮れての出発でした。経由地をシカゴからセントルイスに変更して、どうにかスプリングフィールドまで到着しましたが、セントルイスからスプリングフィールドへは、とても

小さな飛行機でした。アメリカ中西部特有の超肥満の人たちが、機体のバランスを取るために、あなたはここ、あなたはあそこと座席を変えられた後、飛行機はユラユラしながらも何とか飛び立ち、スプリングフィールドに無事に着きました。

イリノイ州は、ミシガン湖の南西に位置し、アメリカで3番目に大きい都市であるシカゴがある州です。スプリングフィールドは州都であり、第16代大



南イリノイ大学医学部

周囲は高い建物がほとんど無く、のどかな環境の中にある。
見渡せる範囲に山は一つもなく、夕方の車の運転は夕日が非常に眩しい。



リンカーンの墓

広々とした公園のような墓地に、高い塔があり、中に大きな石櫃があり遺体が安置されている。スプリングフィールドの観光名所の一つ。

統領のリンカーンが弁護士として働いていた所で、その当時の住居が保存されています。また、凶弾に倒れたあとの遺体は、ワシントンからここスプリングフィールドに移され安置されています。リンカーンにゆかりの深い事から、イリノイ州は Land of Lincoln と呼ばれています。



研究室の主任教授の Leonard P. Rybak 教授

ジョークと、ひとの口まねが上手な陽気な教授である。

私が研究を行った南イリノイ大学の Rybak 研究室は病院施設から道路を隔ててスカイウェー（渡り廊下）でつながったところにあり、Rybak 教授も診療の空いた時間には、実験の様子を見に来たりと便利な環境です。また、薬学部大学院の一部施設が併設されており、新たなプロジェクトの計画など、数カ所の研究室の教授が集まって話し合ったり、採取した実験の標本なども階段を下りて持っていくとすぐに代謝産物の濃度測定などをやってくれたり共同研究が盛んでした。

教育の面で興味深かったのは、医学部学生に、大学から研究費を付けて夏休みの約2カ月間に研究室に配置し研究をさせ、発表させると言うことが行



研究室の様子

右が私、中央が Rybak 教授、左はラボ・マネージャーの Craig。

Craig は、コンピュータの組み立て測定器具の調整から、電顕標本の作製まで何でもこなす。私の後ろの防音室を私専用に使わせてくれた。



夏休みに研究に来ていた医学生 of Tom

実験の合間には、医学部ホームページの中の国家試験問題集を楽しそうに解いていた。医学生は、パスワードを持っていて、アクセスできる。

れていました。研究を希望する学生は、担当の教授と相談し研究計画を立て審査を受け、良否により研究費の額が異なるという実にアメリカらしい方法が採られていました。

9月11日のテロの後には、警備が厳しくなり、かなり年配の守衛のおじさんも、拳銃を持って警備をするようになりました。テロの当日は飛行機が全て飛ばなかったため、コロラドへ講演に出かけていた Rybak 教授は、20時間近くレンタカーを運転して帰るはめになり大変だったようです。また、世界一離発着の多いシカゴオヘア空港がそばにあるため、いつも何本もの飛行機雲が空にあるのですが、その日から数日は異常にすっきりしていて、空を見ても不安な感じでした。炭疽菌も隣のミズーリ州でも発見され、不安な日々を送っていましたが、無事帰国することが出来ました。

今回、在外研究員としてアメリカでの研究生活という貴重な体験をすることが出来、関係者各位に深謝いたしますと共に、テロでなくなった方々のご冥福をお祈りします。

表敬訪問

復旦大学薬学院・副院長他が 学長を表敬訪問

中国の復旦大学薬学院・副院長 イエ デヨン教授とツェン ダウフォン教授が、12月17日(月)に池田学長を表敬訪問しました。

これまで本学薬学部は、平成元年10月に上海医科大学薬学院（現在の復旦大学薬学院）と学部間協定を結んで交流を続けてきましたが、上海医科大学は昨年4月に復旦大学と統合し、約30ばかりの部局を有する大学として発展解消したことにより、今回改めて学術交流協定の締結を話し合い、併せて両氏が学術講演を行うために来学したものです。

これにより復旦大学は、教職員数約9,000名で学生数30,000名の中国では3番目に大きい大学になりました。

学長との懇談は、薬学部の中島学部長、袁助教授、



学長表敬の状況

宮崎事務長を交え、同大学との間の今後の大学間交流協定締結等について和やかに意見交換が行われました。

（総務部国際交流課）

笹川保健協力財団モスクワ事務所の 職員一行が学長を表敬訪問

笹川保健協力財団モスクワ事務所のストーリージャック・ピクター氏、ポーシン・イリヤ氏、カムシュコフ・ニコライ氏が12月18日(火)に池田学長を表



学長表敬の状況

敬訪問しました。

今回は、長崎大学が過去10年間ロシア、ウクライナ、ベラルーシの各共和国で行ったチェルノブイリ笹川医療協力のプロジェクトが今般終了することに際して、感謝の意を表すために来学したものであります。

学長との懇談は、医学部の山下教授を交え、モスクワで今後計画されている新規プロジェクトの話題等について和やかに意見交換が行われました。

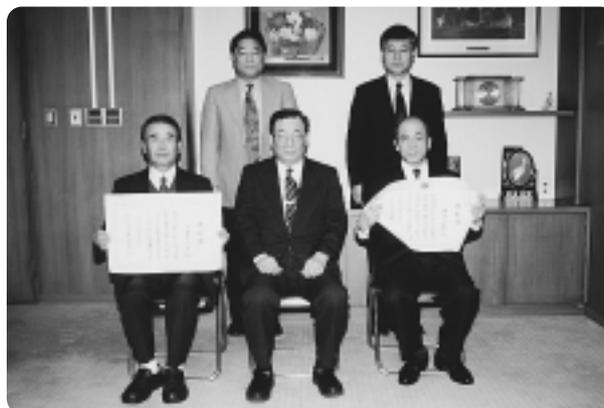
（総務部国際交流課）

学内ニュース

平成13年度医学教育等 関係業務功勞者表彰

大学における医学又は歯学に関する教育，研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に関し顕著な功勞のあった者として，次の職員の方々が11月21日(水)にホテルフロラシオン青山（東京都）において文部科学大臣から表彰されました。

医学部附属病院 副調理師長 瀬戸 公秀
医学部附属病院 研究補助員 下釜多久美



池田学長(前列中央),渡邊副学長(後列左),廣瀬事務局長(後列右)に受賞の報告をする下釜氏(前列左)と瀬戸氏(前列右)
(総務部人事課)

医学部附属原爆後障害医療研究施設 研究棟竣工祝賀会開催

百年設計といわれる長崎大学では初めての医学部附属原爆後障害医療研究施設（原研）の研究棟改修工事が完了し，12月4日(火)学内外の多数の列席者（約150名）のもとに竣工祝賀会が医学部ポンペ会

館で行われました。

列席者は祝賀会に先立ち，新装となった研究棟を，施設長をはじめとする職員の案内のもと約1時間かけて見学し，祝賀会は，まず齋藤寛医学部長の挨拶，朝長万左男施設長による研究棟の改修工事についての経過説明と続き，難波助教（原研細胞）がスライドを使って新旧研究棟を比較しながら説明を行いました。

次に池田高良学長から祝辞と福岡工事事務所長補佐の紹介がされ，廣瀬寛事務局長の音頭による乾杯の後，懇談に移り，祝賀会は盛会に終了しました。

新原研研究棟は，強化耐久性の構造に加え，身体に障害をもつ学生・大学院生のために，エレベーター，トイレなどのバリアフリー設備があり，また職員の研究活動を快適に行うために多くの環境整備に工夫が凝らされています。

(医学部)



改修工事の経過説明を行う
朝長施設長



祝辞を述べる池田学長

「長崎大学の将来構想」に関する学内説明会開催

平成13年6月に発表された「大学（国立大学）の構造改革の方針」を受けて、各部局で検討いただいています。今回、「国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会」の最終報告が発表されたのを機に各部局等でさらに検討いただくために、本学では12月5日(水)に教育学部教育学実験室において「長崎大学の将来構想」についての学内説明会が開催されました。

はじめに池田学長から「教員養成系学部を存続させるかどうか」及び「他学部を含めた再編・統合を

行う意思があるかどうか」という長崎大学の将来構想の考え方（例示）について資料に基づき説明があり、次いで橋本副学長から「長崎大学における教員養成の在り方」について説明が行われました。説明会には全学部から約170名の教職員が集まり、説明に真剣に聞き入っていました。また、説明終了後には、法人化後の大学の在り方も含めて熱心な質疑応答が行われました。



説明中の池田学長



プロジェクターで説明中の橋本副学長



説明に聞き入る教職員

(総務部総務課)

「外国人留学生交流の集い」開催

今回で24回目を迎えた「外国人留学生交流の集い」が、12月6日(木)に長崎厚生年金会館で開催されました。

集いには留学生、教職員、日本人学生、学外の支援団体の関係者など約420名が参加し、池田学長及び来賓の挨拶に続いて生産科学研究科後期1年の李^リ虎哲^ホさん（韓国）が謝辞を述べた後、恒例の留学生による各国の民族舞踊・楽器演奏・歌の紹介などの

アトラクションが行われ、終始和やかな雰囲気の中で参加者相互の親睦と交流が深められました。



(学務部留学生課)

大学病院の法人化に向けての 講演会開催

医学部附属病院は、法人化に向けて職員の意識改革・資質の向上を図るため、奈良国立博物館 杉長敬治副館長を招き、大学病院の法人化に向けての講演会を12月6日(木) 臨床大講義室において開催しました。



講演中の奈良国立博物館杉長副館長



熱心に聞き入る出席者

講演会は、医師、看護婦及びコ・メディカル部門等の職員並びに各部局からの教職員約310名が参加し、「国立博物館が独立行政法人になって」と題し、①国立博物館が「国立」から「独立行政法人」になるまで、②独立行政法人の仕組み、③独立行政法人の中期目標・中期計画・評価などについて、人事面や予算面での苦労話、メリット・デメリットなどについて講演がありました。

特に大学病院に関しては、病院収入をどのように使用するか十分な検討が必要とか、医療訴訟に係る国家賠償法が適用されなくなるので、保険が必要になるなど詳細に説明があり、法人化についての知識を深めるとともに、今後の対応を認識する上で、大変有意義な講演会となりました。

(医学部附属病院)

平成 13 年度 教育者 表彰

学校教育の振興に関し特に功績顕著な功労のあった者として、次の職員の方が12月7日(金)に東京国際フォーラムレセプションホール(東京都)において文部科学大臣から表彰されました。

教育学部附属養護学校教頭 青 木 瑞 恵



池田学長(前列左) 渡邊副学長(後列左), 廣瀬事務局長(後列右)に受賞の報告をする青木氏(前列右)

(総務部人事課)

患者さんに光と音楽の プレゼント

医学部附属病院では、患者さんへのサービスの一環として12月10日(月)、本館玄関前ロータリーにクリスマス・イルミネーションを設置し、午後5時30分から点灯式を行いました。

点灯式では、ロータリー帯の植え込みをクリスマスツリーに仕立て、約7000個の電灯で彩り、サンタクロースやトナカイ、雪だるまなどを配置したもので、サンタクロースに扮した澄川病



子供達と写真におさまる澄川病院長

院長の挨拶ののち、点灯のスイッチが押され、待ち焦がれた数多くの患者さんをはじめ、職員、地域住民の方などがクリスマスの雰囲気を楽しみました。

このクリスマス・イルミネーションは、12月25日(火)まで点灯(時間：午後5時30分から午後9時)されました。

また、13日(木)午後7時から、外来ロビーにおいて、医学部及び医療技術短期大学の学生の聖歌隊(約30名)による、キャンドルサービスが行われ、患者さん、職員とで、きよしこの夜、諸人こぞりて、ジングルベルなどを合唱し、一足早いクリスマスの雰囲気を楽しみました。



学生の聖歌隊によるキャンドルサービス

(医学部附属病院)

平成13年度学内合同事業 ボウリング大会開催

平成13年度学内合同事業ボウリング大会は、12月11日(火)ラッキーボウルにおいて、教職員115名が参加し開催されました。

本大会は、今年度で第13回目の開催となります。濱崎総務部長の開会挨拶に引き続いて、男女別2ゲームの合計点による個人戦が終始和やかなうちに展開されました。

男性の部では総務部の山野恵一さんが、女性の部では総務部の城戸昌子さんが優勝されました。

大会の成績は次のとおりです。

競技風景



表彰式

【男性】

【女性】

優勝	山野 恵一	総務部	370点	優勝	城戸 昌子	総務部	258点
準優勝	宮崎 敏博	歯学部	358 "	準優勝	荒竹 葉子	医学部	257 "
第3位	濱端 哲史	水産学部	338 "	第3位	宮崎 嘉子	歯学部附属病院	253 "
第4位	藤原 雄一	経理部	338 "	第4位	大橋 涼子	医学部	249 "
第5位	近藤 久義	医学部	335 "	第5位	石坂 亜美	医療技術短期大学部	245 "
第6位	稲葉 榮一	歯学部	332 "	第6位	原田 久美	経理部	245 "
第7位	横尾孝一郎	医学部附属病院	327 "	第7位	山崎 美香	医学部	235 "
第8位	千北 茂	総務部	321 "	第8位	中村 新奈	教育学部	233 "
第9位	土橋 一徳	経理部	315 "	第9位	馬場由紀子	経理部	231 "
第10位	満島由紀夫	医学部附属病院	314 "	第10位	高江洲栄子	総務部	226 "

(総務部人事課)

第18回熱帯医学研究コース 修了証書授与式挙行

12月13日(木) 長崎大学熱帯医学研究所で、第18回熱帯医学研究コースの修了式を行いました。



同コースは、昭和58年度より文部科学省及び国際協力事業団(JICA)の協力を得て、熱帯地域には

びこる熱帯病及び各種感染症の予防、撲滅に貢献するため、開発途上国の現職の医師などに12ヶ月間にわたり、ウイルス学や寄生虫学など研究する機会を提供しているものです。

修了式では、青木所長から中国、ナイジェリア、ブルンディなど10カ国10名の研修生に修了証書が授与され、池田学長の祝辞、国際協力事業団の祝辞の後、研修生全員が感謝の言葉を述べました。

なお、これまでに同研究所は、アジア、アフリカ、中南米、東欧地域の35カ国131名の研修生を受け入れてきました。

(熱帯医学研究所)

第2回機器分析センター 講演会開催

機器分析センター主催の講演会を全学の教官、学生(40数名)が参加し、薬学部柏葉会館において12月14日(金)に開催しました。今回の講演は、昨年のNMR(核磁気共鳴スペクトル)を中心にした講演内容の第1回講演会に続くもので、3人のX線構造解析者が最新の構造解析等について話されました。

山縣ゆり子教授(熊本大学薬学部)と畠 忠博士(三共、バイオメディカル研究所)はタンパク質の構造解析に関する最新の話で、特に酵素の解析とそれらの立体構造から原子レベルでの機能の解明の話は圧巻でした。また田村千尋博士(元三共)は、故ウッドワード博士や平田義正教授らとの熾烈な国際競争を行ったフグ毒のテトロドキシンの構造解析の話と抗高脂血症薬メバロチンの開発に関わる企業研

究の難しさ等の話をされました。

昨今の大学を取り巻く環境は一段と厳しくなり機器分析センターとて例外でなく、その中で、幅広い分野の研究者への支援を通して科学の進展に寄与し、自ら質の高い研究ができるようにするためにも、着実にセンターの実績を確保することも重要です。さらに、物理的な機器による測定環境を整えるばかりではなく、人と人との繋がりから人を中心とする研究のあり方等を、経験の豊かな先生方の講演から学ぶこと、またその機会を設けることもセンターの役目ではないかと思えます。



左から山縣教授・畠博士・田村博士

(機器分析センター)

平成13年度長崎大学 診療報酬請求事務研修実施

長崎大学診療報酬請求事務研修が医学部附属病院において、10月25日(木)から12月20日(木)までの約2ヶ月の間で、20日間(1日2時間)実施されました。

この研修は、平成8年度から毎年実施しているもので、診療報酬請求事務職員に対し、その職務の遂行に必要な基礎知識・能力を修得させることにより、資質の向上を図り、医療業務事務組織の整備・充実に資することを目的としたものであり、今回は5名が受講しました。

研修受講者

所 属	氏 名	所 属	氏 名
医事課専門職員	河村 渉	医事課収入係	木下 真琴
医事課(医療情報担当)	岩元 泉	医事課(外来担当)	鶴田 あおい
医事課(外来担当)	渡辺 郁子		

(医学部附属病院)

薬学部で第1回FD実施

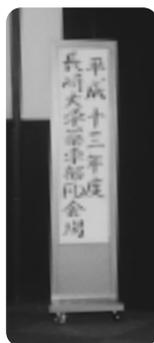
最近、大学を取り巻く環境が著しく変化していることを誰もが実感しています。国立大学の独立行政法人化、文部科学省によるトップ30案、等々早急に対応が迫られています。そのためには大学改革が不可欠との認識に立ち、長崎大学でも種々の取り組みがなされていますが、その一環としてFDが実施されているところです。一方、部局においても改革を推進する点では大学全体の流れと変わりはなく、薬学部においても学部の活性化を図るとともに、研

研修内容は、工藤事務部長の開講の挨拶の後、「医療保険制度」、「初・再診料、入院料、処置料・手術料」等に係る診療報酬請求事務とテキストによる「外来・入院会計欄、レセプト作成」、「継続療養、公費負担医療制度」、「ホスピタリティマナー」、「診療報酬請求事務の応用(請求漏れ防止対策)」等の医療業務・事務全般について講義及び実習が実施されました。

また「医療保険制度」・「ホスピタリティマナー」については、研修生以外の事務系職員及び看護部職員、コ・メディカル職員も多数受講し、患者等への応接等の資質の向上を図りました。

究・教育の質の高度化を目指しているところです。ここ数年の間に薬学の教育を取り巻く環境も一段と変化を遂げていますが、6年制の導入の検討、モデル・コア・カリキュラムの設定、1ヶ月実務実習の必修化、学生による授業評価の実施、等々重要な事項の整備・充実が図られています。

ところで、これらの重要事項をさらに充実・改善していくには、学部教官が問題点を積極的に意識し自らがそれに関与していく姿勢が重要です。そこで、今回のFDでは、明日の研究・教育の中心となるべき助教授の先生をターゲットに、学部の運営、研究・教育の活性化等について話題を提供し、討議することにしました。話題提供者は評議員、教務委員、入



試委員および学部活性化対策委員の各教授にお願いしました。より親密な対話を通じてこれからの薬学部の方向性を探ろうという計画です。また、これを機会に学部活性化委員会を中心に“薬学部版FDハンドブック”を作成しました。学部の管理運営に関する規定や会計、学務の業務の実際等について、普段見過ごしがちな事項を整理し、研究・教育の向上に役立つ資料としてまとめてあります。今回のFD

ではこのハンドブックに沿って討議しました。先生方の非常に積極的かつ建設的な討議により充実した内容となりました。

今回のFDは野母崎町の“海の健康村”で12月25日(火)の午後と26日(水)の午前に宿泊を伴って行いました。総勢25名の参加がありましたが、帰りには薬学部附属の野母薬用植物園を見学するなど、充実した研修を行うことができました。

(薬学部)

「県下離島高校生招聘実習」 実施

水産学部では、12月25日(火)から27日(木)の3日間、教育研究改革・改善プロジェクト「県下離島高校生招聘実習」を実施しました。

このプロジェクトは、大学で行われるオープンラボなどの活動に参加が困難な離島在住の高校生を招聘し、海の生物と環境の関わりや食糧の問題に対する問題意識を喚起する目的で、本年度が初めての企画です。招聘先は県立五島高校と県立対馬高校の高校生を中心とし、他に県立佐世保東翔高校の生徒3名も参加して行われました。初日の移動日は荒天のため一部生徒に欠席者がでしたが、五島高校から5名、対馬高校から9名が無事長崎へ到着しました。

参加した生徒達は長崎市多良町の水産学部附属海洋資源教育研究センターを拠点に、初日はセンターでプランクトン採集と底生生物同定の実習を、翌日は水産学部にもバスで移動し、コンピュータによる海の環境と流れについての実習、魚の筋肉に含ま



魚の筋肉に含まれる酵素活性の測定

れる酵素活性の測定を行い、最終日には魚とクルマエビの解剖と赤潮プランクトンの毒性に関する実習を行いました。またこれらの外に「海洋生物の多様性について」及び「魚網は海の生産装置」と題した講義も実施しました。

「離島の高校生とその保護者は、大学で行われている教育研究に触れる機会が少なく、進学についての不安感を持っている。今回の企画はそのような状況にある彼らにとって非常に有意義な企画だと思う。」との引率教師の言葉が印象的でした。



魚の解剖実習



底生生物の同定

(水産学部)

「キャンパス・インキュベーションに関する懇談会」開催

長崎大学は、(財)日本立地センター インキュベーション研究所長の星野 敏氏を迎え、12月26日(水)に懇談会を開催しました。

池田学長の挨拶の後、星野氏から我が国におけるキャンパス・インキュベーションの現状と課題についての講演と渡邊副学長から長崎県における産学官連携の現状と課題についての説明があり、引き続き、



挨拶する池田学長



講演中の星野所長

フリーディスカッションが行われました。当日は、本学の関係者に加え、長崎市及び(財)長崎県産業振興財団からの参加もあり、活発な意見交換が行われました。

フリーディスカッションが行われました。

当日は、本学の関係者に加え、長崎市及び(財)長崎県産業振興財団からの参加もあり、活発な意見交換が行われました。



説明中の渡邊副学長

(総務部研究協力課)

平成13年度第2回長崎大学職員企業会計等事務研修実施

12月17日(月)から12月27日(木)までの8日間にわたり、長崎大学事務局第2会議室において、本年度第2回目の企業会計等事務研修を実施しました。

この研修は、平成12年度から始めたもので、職員に日商簿記3級程度の知識を習得させることにより、企業会計に関する理解をもたせるとともに、独立行政法人化を含めた今後の会計事務の円滑な実施と資

質の向上を図ることを目的として実施したものです。

講師の長崎大学経済学部福川助教授の指導の下、35

名の研修生は始終意欲的な態度で研修に臨んでいました。



研修風景

(総務部人事課)

外国出張者等一覧(平成13年12月出国分)

外国出張

部局	職名	氏名	渡航先国	期間	渡航目的	備考
教育	助教授	長岡 信治	タイ	13.12.15 ~ 13.12.30	チェンムアンにおいて化石発掘調査	科学研究費補助金
経済	教授	池谷浩之輔	中国	13.12.11 ~ 13.12.15	中国・深センにおける製造業の実態調査および香港における関連情報・資料収集	
医学	助手	カン カレク ネットズ	中国	13.12.1 ~ 13.12.6	第9回世界婦人科内分泌学会出席及び発表	
"	教授	下川 功	中国	13.12.2 ~ 13.12.6	「国際シンポジウム：腫瘍発生に関する最近の基礎及び臨床研究」出席・発表及び研究討議	
"	講師	宮崎 義継	アメリカ	13.12.16 ~ 13.12.20	ICAAC 出席	
"	教授	小路 武彦	ミャンマー	13.12.18 ~ 13.12.24	ミャンマー国に於ける環境毒性物質としての鉄による肝臓発症若年化に関する調査研究	科学研究費補助金
"	講師	菱川 善隆	ミャンマー	13.12.18 ~ 13.12.24	ミャンマー国に於ける環境毒性物質としての鉄による肝臓発症若年化に関する調査研究	科学研究費補助金
"	助手	和泉 伸一	ミャンマー	13.12.18 ~ 13.12.24	ミャンマー国に於ける環境毒性物質としての鉄による肝臓発症若年化に関する調査研究	科学研究費補助金
"	助手	進 正志	ミャンマー	13.12.18 ~ 13.12.24	ミャンマー国に於ける環境毒性物質としての鉄による肝臓発症若年化に関する調査研究	科学研究費補助金
"	講師	高村 昇	ロシア	13.12.16 ~ 13.12.21	チェルノブイリ甲状腺癌超音波診断カラーアトラス作成指導のため	
歯学	教授	中山 浩次	タイ	13.12.4 ~ 13.12.8	拠点大学交流事業に係る研究者交流	
"	助教授	真鍋 義孝	台湾	13.12.17 ~ 13.12.27	土井ヶ浜遺跡弥生人のルーツを探るために、台湾の中央研究院に保管されている河南省殷墟の青銅器時代人骨の研究を行う	
工学	教授	野口 正人	台湾	13.12.10 ~ 13.12.15	流域管理の国際会議に出席、研究討議並びに共同研究打合せ、意見交換	
"	教授	田丸 良直	シンガポール	13.12.17 ~ 13.12.22	シンガポール国際化学会議出席、資料収集及び招待講演、研究打合せ	科学研究費補助金
水産	教授	松岡 数充	マレーシア	13.12.1 ~ 13.12.6	平成13年度大型共同研究方式による学術交流事業に係る共同研究の実施のため	日本学術振興会
医病	講師	平瀧 洋一	フランス, モナコ	13.12.7 ~ 13.12.12	国際耐性菌サーベイランスプログラム PROTEKT アドバイザー会議出席及び研究打合せ	

海外研修

部局	職名	氏名	渡航先国	期間	渡航目的	備考
教育	教授	井川 惺亮	韓国	13.12.12 ~ 13.12.17	“International Sculptors Exhibition”招待出品	
経済	教授	ガン ジェフリー チャールズ	東ティモール	13.12.8 ~ 13.12.14	選挙法律シンポジウムにおいて講演および討論会進行 フィールドワークの専門家との意見交換・情報収集	
"	教授	福田 正巳	中国	13.12.11 ~ 13.12.15	中国・深センにおける製造業の訪問調査および香港における情報収集	
"	教授	藤野 哲也	中国	13.12.11 ~ 13.12.15	中国・深センにおける製造業の訪問調査および香港における情報収集	
"	教授	バスー ディバック ラグ	ロシア	13.12.15 ~ 14.1.4	ロシア経済と政界貿易の関係についての情報収集	
医学	教授	朝長万左男	アメリカ	13.12.7 ~ 13.12.12	第43回全米血液学会総会出席及び発表	
"	教授	田口 尚	韓国	13.12.7 ~ 13.12.10	韓国腎臓研究会出席・講演及び打合せ	

部局	職名	氏名	渡航先国	期間	渡航目的	備考
医学	助手	横尾美智代	ネパール	13.12.15 ~ 13.12.25	異なるカースト/エスニックグループ間における食品摂取状況の比較調査の実施及び研究打合せ	
"	教授	河野 茂	アメリカ	13.12.16 ~ 13.12.21	第41回インターサイエンス学会出席及び発表	
"	教授	新川 詔夫	中国	13.12.23 ~ 13.12.27	中国医学遺伝学国家重点実験室訪問及び研究打合せ	
工学	助教授	真谷 捷郎	アメリカ	13.12.2 ~ 13.12.7	10th International Conference on Fracture 出席, 論文発表, 情報交換, 交流	
環境	助教授	連 清吉	台湾	13.12.20 ~ 13.12.27	中日文化比較会議参加及び論文発表, 中国語学に関する研究討論及び資料収集	
医病	助手	塚崎 邦弘	アメリカ	13.12.7 ~ 13.12.12	第43回全米血液学会総会 発表	
留学生センター	教授	宮原 彬	ベトナム	13.12.16 ~ 13.12.23	教材開発打合せ及び資料収集	

(総務部国際交流課)

外国人研究者受入状況(平成13年11月分)

(見学・表敬訪問等を除く)

部局	氏名	国籍	所属機関・職名等	受入期間	受入者の官職・氏名	本学における活動内容	備考
教育	ベルナールド ゴンザレス パレット	オーストラ リア		13.11.22 ~ 13.12.4	教授 井川惺亮	「永遠というアートについて - 自作を中心に - 」 についての特別講演及び 情報交換	
医学	ヨーコ イケダ ナカムラ	ボリヴィア	開業医	13.11.28 ~ 13.11.30	教授 石丸忠之	腹腔鏡下手術の見学	
"	ホ ジンチョル	韓国	大韓赤十字社 居昌赤十字病院 院長	13.11.30	教授 朝長万左男	医学部附属原爆後障害医 療研究施設における原爆 被爆者の健康管理システ ムの見学及び世界の放射 線被爆者医療の現状の講 義を受けた	
"	キン ウンオク	韓国	陝川原爆被害者福祉 会館 物理治療師	13.11.30	教授 朝長万左男	医学部附属原爆後障害医 療研究施設における原爆 被爆者の健康管理システ ムの見学及び世界の放射 線被爆者医療の現状の講 義を受けた	
薬学	ワン グアン ジ	中国	中国薬科大学 副校長(教授)	13.11.15 ~ 13.11.19	学部長 中島憲一郎	情報交換及び施設見学	
"	リウ ジン ジン	中国	中国薬科大学生物製 薬学院 副院長(教授)	13.11.15 ~ 13.11.19	学部長 中島憲一郎	講演・情報交換及び施設 見学	

部局	氏名	国籍	所属機関・職名等	受入期間	受入者の官職・氏名	本学における活動内容	備考
薬学	ガオズウソン	中国	中国薬科大学 校長 室主任(副教授)	13.11.15 ～ 13.11.19	学部長 中島憲一郎	情報交換及び施設見学	
水産	アヌック クリッサナバン	タイ	プリンス・ソクラー 大学 スラタニキャン パス・常勤講師	13.10.17 ～ 13.12.30	教授 夏苺 豊	イカ類の資源生物学的研究	
熱研	リダックダオ	ベトナム	ベトナム国立マリア ア・寄生虫・病害昆 虫研究所 研究員	13.11.15 ～ 13.12.12	助手 中澤秀介	熱帯熱マリア原虫の遺 伝子のタイピングに關す る研究	
"	モハメド ラファット タハ	エジプト	エルミニア大学医学 部 講師	13.11.26 ～ 14.11.25	教授 平山謙二	日本住血吸虫の感染防御 免疫機構の解析に關する 研究	外国人特別 研究員
生産	ヤヒア マハムッド	バングラデ シュ	バングラデシュ 水 産研究所 上級研究員	13.11.25 ～ 14.11.24	教授 野口玉雄	バングラデシュ産淡水フ グの毒について - 未知の 猛毒クルペオトキシンお よびアオブダイ毒の解明 に關連して	外国人客員 研究員
"	ソン チュル キム	韓国	KAIST(韓国工業技 術院)・教授/韓国 高分子学会・会長	13.11.2	教授 古川睦久	2001 九州・西部 - 釜山・ 慶南高分子(第10回)織 維(第8回)ジョイント シンポジウムの長崎大学 工学部との共催での開催 御礼と日韓学术交流につ いて	
"	ヤング ギル チン	韓国	Gyeong Sung National Univ. 教授/韓国纖維学会 釜山 - 慶南支部・支 部長	13.11.2	教授 古川睦久	2001 九州・西部 - 釜山・ 慶南高分子(第10回)織 維(第8回)ジョイント シンポジウムの長崎大学 工学部との共催での開催 御礼と日韓学术交流につ いて	
"	チャン シイ ハ	韓国	Pusan National Univ. 教授/韓国高分子学 会 釜山 - 慶南支部 ・副支部長	13.11.2	教授 古川睦久	2001 九州・西部 - 釜山・ 慶南高分子(第10回)織 維(第8回)ジョイント シンポジウムの長崎大学 工学部との共催での開催 御礼と日韓学术交流につ いて	
機器分析 センター	ミッシェル ラージュマン	フランス	エクス・マルセイユ 第3大学	13.11.19	助教授 富永義則	情報交換	

(総務部国際交流課)

主 要 行 事 等

(平成13年12月1日～12月31日)

部 局	日	事 項	部 局	日	事 項	
事 務 局	3	長崎大学学生生活研究会(～4)	経 済 学 部	5	臨時研究科教授会・臨時教授会	
	"	平成13年度共済組合年次監査		12	定例教授会	
	(～5)			19	定例教授会	
	5	「長崎大学の将来構想」に関する説明会	医 学 部	5	定例大学院医学研究科教授会・学部教授会	
	6	平成14年度推薦入学Ⅰ試験 〔教育, 経済, 医(保健), 薬, 工(B・C), 水産)(～7)		19	定例大学院医学研究科教授会・学部教授会	
	"	平成14年度帰国子女特別選抜試験(工, 水産)	歯 学 部	5	定例教授会	
	"	平成13年度長崎大学外国人留学生交流の集い		19	定例教授会	
	7	第3回ホームページ企画・運用専門委員会	薬 学 部	5	定例教授会	
	"	生物災害防止安全委員会		6	平成14年度推薦入学試験	
	"	組換え DNA 実験安全委員会		12	臨時教授会	
	10	全学学務関係係長等連絡会議		19	定例教授会	
	11	事務連絡協議会	工 学 部	25	平成13年度薬学部ファカルティ・ディベロップメント(～26)	
	"	平成13年度学内合同事業ボウリング大会		13	臨時教授会・学科長会・代議員会・専攻主任会	
	14	部局長会議	環 境 科 学 部	20	定例教授会・前期課程工学系委員会	
	"	第501回評議会		19	定例教授会	
	17	就職なんでも相談	水 産 学 部	12	臨時教授会	
	"	平成13年度第2回長崎大学職員の企業会計等事務研修(～27)		19	定例教授会	
	18	就職なんでも相談	熱 帯 医 学 研 究 所	5	定例教授会	
	21	大学改革推進委員会学部教育専門委員会		13	平成12年度熱帯医学研究コース修了式	
	"	第6回全学教育実施委員会		19	定例教授会	
	"	留学生交流委員会	医 学 部 附 属 病 院	4	臨時臨床主任会議	
	"	就職なんでも相談		12	臨床主任会議	
	"	放送大学との単位互換協定調印式		17	医局長会議	
	22	就職なんでも相談	歯 学 部 附 属 病 院	18	業務連絡協議会	
	25	第5回学術交流委員会		26	病院運営会議	
	28	仕事納め式	生 産 科 学 研 究 科	19	前期課程水産学系委員会	
	教 育 学 部	5		定例教授会	20	前期課程工学系委員会
		12		臨時教授会	26	臨時教授会
"		防火訓練	医 療 技 術 短 期 大 学 部	6	平成14年度推薦入学試験(医学部保健学科)	
15		第2学期終業式(附属幼稚園)		12	臨時保健学科会議	
19		定例教授会		20	定例医療技術短期大学部教授会	
21		第2学期終業式(附属小学校)		"	定例保健学科会議	
"		第2学期終業式(附属養護学校)				

教育研究事項

「日本薬学会九州支部学術奨励賞」受賞

薬学部・伊藤 潔助教授並びに尾野村 治助教授が、日本薬学会九州支部学術奨励賞を12月15日(土)に受賞されました。

同賞は、日本薬学会九州支部に所属する会員のなかから、薬学またはその応用に関して優れた研究業績を挙げた者に授与されるものです。

なお、授賞式は同日に、第18回九州支部大会（熊本大学）において行われました。



薬学部
伊藤 潔助教授



薬学部
尾野村 治助教授

(薬学部)



お知らせ

訃 報

- 医学部内臓機能医学講座 助教授 中田恵輔氏（48歳）は、1月6日(日)逝去されました。

同氏は消化器病，特に肝臓学の教育に貢献されるとともに，ウイルス性肝炎から肝硬変，肝癌への進展機序の解明や，肝疾患の疫学・治療において多大な研究成果を挙げられました。また，平成6年～10年には長崎大学保健管理センターの助教授として，学生・職員の健康管理に尽力されるとともに，薬学研究科の教官としても多大な貢献をされました。

ここに，謹んで哀悼の意を表します。

告別式は1月8日(火)，法倫会館（長崎市茂里町）にて執り行われました。

人事

◎人事異動

学長発令

任免等の区分	発令年月日	氏名	現官職	発令内容	備考
採用	13.12.2	奥 竜 太		医学部 助手	内臓機能医学
	13.12.16	川 原 康 弘		歯学部附属病院 助手	歯科放射線科
	14.1.1	隈 上 武 志		医学部 助手	神経感覚医学
	14.1.1	馬 場 直 樹		歯学部 助手	歯科補綴学第一
	14.1.1	藪 下 幸 子		医学部附属病院 看護部 看護婦	
昇任	13.12.16	吉 村 秀一郎	医学部附属病院 助手	医学部附属病院 講師	産科婦人科
	13.12.16	朝 野 和 典	医学部附属病院 助手	医学部附属病院 講師	第二内科
	14.1.1	平 戸 里 美	医学部附属病院 看護部 看護婦	医学部附属病院 看護部 副看護婦長	
配置換	13.12.14	高 田 浩 一	医学部附属病院 助手	医学部 助手	神経感覚医学
辞職	13.12.31	山 下 美和子	医学部 助手		
	13.12.31	麻 生 宏 樹	医学部 助手		
	13.12.31	松 本 壮 吉	歯学部 助手		
	13.12.31	井 関 充 及	熱帯医学研究所 助手		
	13.12.31	伊 藤 愛	教育学部附属幼稚園 教諭		
	13.12.31	小 浦 正 昭	工学部 専門職員		
	13.12.31	平 野 知 音	医学部附属病院 看護部 副看護婦長		
臨時的任用	13.12.6	皆 見 尚 子		医学部附属病院 看護部 看護婦	～ 14.10.9
休職	13.12.17	田 中 藤 信	医学部 助手	研究休職	～ 15.1.31
	14.1.1	渡 邊 郁 哉	歯学部 助手	研究休職	～ 16.12.31
復職	13.12.14	高 田 浩 一	医学部附属病院 助手		精神神経科
職務復帰	14.1.1	吉 村 美 織	教育学部附属幼稚園 教諭	育児休業より	
育児休業	13.12.6	中 村 ゆかり	医学部附属病院 看護部 看護婦		～ 14.10.9
命	14.1.1	細 矢 由美子	歯学部 助教授	歯学部附属病院小児歯科外来医長	
	14.1.1	麻 生 憲 史	医学部附属病院 助手	医学部附属病院内科（熱帯医学研究所）医局長	
	14.1.1	吉 嶺 裕 之	医学部附属病院 助手	医学部附属病院内科（熱帯医学研究所）外来医長	
	14.1.1	鬼 塚 正三郎	医学部附属病院 助手	医学部附属病院内科（熱帯医学研究所）病棟医長	
	14.1.1	榎 本 寛	医学部 助手	医学部附属病院整形外科医局長	

任免等の区分	発令年月日	氏名	現官職	発令内容	備考
免	14.1.1	長谷川 浩三	歯学部附属病院 講師	歯学部附属病院小児歯科外来医長	
	14.1.1	天 野 秀 明	熱帯医学研究所 助手	医学部附属病院内科（熱帯医学研究所）医局長	
	14.1.1	麻 生 憲 史	医学部附属病院 助手	医学部附属病院内科（熱帯医学研究所）外来医長	
	14.1.1	吉 嶺 裕 之	医学部附属病院 助手	医学部附属病院内科（熱帯医学研究所）病棟医長	
	14.1.1	弦 本 敏 行	医学部附属病院 助手	医学部附属病院整形外科医局長	

●氏名の変更

年月日	所 属	官 職	新 氏 名	旧 氏 名
13.11.3	医 学 部	研 究 支 援 推 進 員	池 田 亜 紀	池 下 亜 紀
13.12.1	医 学 部	研 究 機 関 研 究 員	内 田 祐 里	秋 山 祐 里
13.12.15	歯 学 部 附 属 病 院	研 修 医	長 富 恵	楠 本 恵

学内の会議

生物災害防止委員会 (12月7日(金)開催)

- (1) 長崎大学における微生物のバイオセーフティーレベルについて
- (2) 長崎大学における微生物の取扱い手続きについて
- (3) その他

組換えDNA実験安全委員会 (12月7日(金)開催)

- (1) 組換えDNA実験計画の審査について

全学学務関係係長等連絡会議 (12月10日(月)開催)

- (1) 学生関係事務の一元化・集中化に係る検証等について

事務連絡協議会 (12月11日(火)開催)

- (1) 長崎大学電気工作物保安規程の一部改正について
- (2) その他

部局長会議 (12月14日(金)開催)

- (1) 学内共同教育研究施設の長の選考について
- (2) その他

第501回評議会 (12月14日(金)開催)

- (1) 長崎大学の将来像(学部等の再編・統合)について
- 長崎大学における教員養成のあり方 -
- (2) 医学部附属病院と歯学部附属病院の統合について
- (3) その他

大学改革推進委員会学部教育専門委員会 (12月21日(金)開催)

- (1) 今後の検討課題について
- (2) その他

第6回全学教育実施委員会 (12月21日(金)開催)

- (1) 教養セミナーの担当教官について
- (2) 平成14年度全学教育学生便覧(案)について
- (3) その他

留学生交流委員会 (12月21日(金)開催)

- (1) 平成13年度留学生センター授業計画について
- (2) 国内採用による国費外国人留学生(研究留学生)の選考基準について
- (3) 国内採用による国費外国人留学生(学部留学生)の選考基準について
- (4) 英語による大学院特別コースについて
- (5) その他

第5回学術交流委員会 (12月25日(火)開催)

- (1) 長崎大学・ゴメリ医科大学との間の学術交流協定書(案)について
- (2) 長崎大学「国際交流活性化プログラム」について
- (3) その他

全学規則等

目次

- ・長崎大学電気工作物保安規程の一部を改正する規程 1
- 電気事業法施行規則（平成七年通商産業省令第七十七号）の一部改正により、国が直接事業用電気工作物の技術基準適合性を検査する規制が廃止され、代わって事業用電気工作物の設置者が使用前自主検査を行い技術基準適合性を確認し検査記録を保存することが義務付けられたことに伴い、本学の電気工作物（特別高压受変電設備が該当）の使用前自主検査に係る実施体制及び記録の保存について必要な規定を整備するため、所要の改正を行うもの。
- ・長崎大学副学長について「の一部を改正する申合せ」 2
- 長崎大学における自己評価の実施に関する規則の全部を改正する規則（平成十三年規則第二十八号）の制定に伴い、学長が組織等評価委員会及び個人評価委員会の委員長として指名する副学長を、副学長（企画担当）とするため、所要の改正を行うもの。

規程第四十九号

長崎大学電気工作物保安規程の一部を改正する規程を次のように定める。

平成十三年十二月十一日

長崎大学長 池田 高良

長崎大学電気工作物保安規程の一部を改正する規程

長崎大学電気工作物保安規程（昭和四十一年規程第一号）の一部を次のように改正する。

第十三条の次に次の一条を加える。

（使用前自主検査に係る実施体制及び記録の保存）

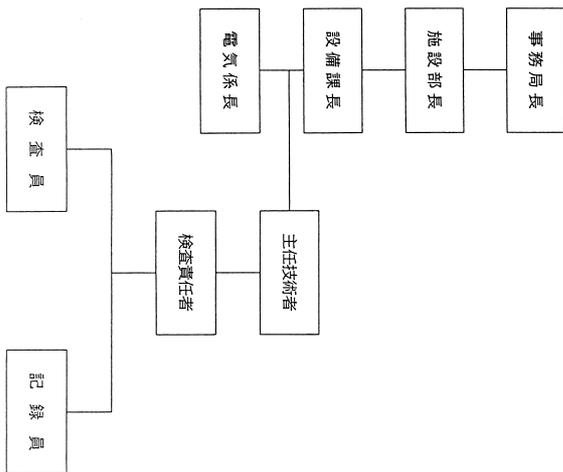
第十三条の二 電気工作物の使用前自主検査に当たっては、法令に基づき主任技術者の監督の下に実施するものとし、使用前自主検査の実施体制は別表第十に定めるとおりとする。

2 前項の使用前自主検査の実施体制において、検査責任者、検査員及び記録員に本学の職員を充てることが困難な場合には、委託契約を行った者に請け負わせることができる。

3 使用前自主検査の結果の記録は、主任技術者の管理の下に適切に保存するものとし、その保存については法施行規則第七十三条の五第二項の規定によるものとする。

別表第九の次に次の一表を加える。

別表第一〇 使用前自主検査に係る実施体制



附則

この規程は、平成十三年十二月十一日から施行する。

長崎大学副学長についての一部を改正する申合せを次のように改める。

〔平成13年7月13日
学 長 裁 定〕

長崎大学副学長についての一部を改正する申合せ

長崎大学副学長について（平成10年12月18日評議会了承）の一部を次のように改正する。

別表第1中 「自己評価総括委員会」を

組織等評価委員会	○				
個人評価委員会	○				

に改める。」

附 則

この申合せは、平成13年10月1日から実施する。

部局規程等の改正の概要

(平成13年12月1日～12月31日制定分)

規程等名 (規程等番号)	制定日 (施行日)	概要
長崎大学大学院経済学研究科規程の一部を改正する規程 (平成13年経済学研究科規程第3号)	13.12.26 (14.1.1)	本研究科の学位論文審査委員については、副査のうち1人は指導教員をもって充てることとしているが、教授会が必要と認めた場合には、この指導教員に代えて学位論文の審査を受ける学生の教育研究に関与した教員を副査として充てることできるようにするため、所要の改正を行うもの。
長崎大学医学部長候補者選考規程の全部を改正する規程 (平成13年医学部規程第6号)	13.12.11 (13.12.11)	本学部に保健学科が設置された機会に、学部長候補者選挙の方法等を全面的に見直し、学部長候補適任者を選出する第一次選挙及び学部長候補者を選出する第二次選挙により実施することとし、学部長候補者選挙の選挙資格者、その方法、不在投票、選挙の成立要件、選挙管理委員会の設置など必要な規定を整備するため、この規程の全部を改正するもの。
長崎大学熱帯医学研究所熱帯医学研修生規程の一部を改正する規程 (平成13年規程第50号)	13.11.30 (14.4.1)	熱帯医学研修生の入所料の額については、研究生の入学料の額に準拠して定めているが、国立学校における授業料その他の費用に関する省令の一部を改正する省令の制定について(平成13年6月1日13文科高第176号文部科学事務次官通達)により、研究生に係る入学料の額が改定されたことに伴い、所要の改正を行うもの。